

SOLAN 開校 1 年目、そして 3 年生の学校生活も最終週となりました。本当にあっという間の 1 年間でした。日頃からこまめに連絡を下さったり、子どもたちの学びや体調管理等をサポートして下さったりと、保護者の皆様の支えがあったからこそ、子どもたちとともに 1 年間楽しく学校生活を送ることができました。本当にありがとうございます。3/17 (木) の学習発表会・学級懇談会もどうぞよろしく願いいたします。

プロジェクト ~メロディ選定~

3/8 (火) の授業では、作曲家の中野健一さんが子どもたちの作ったメロディを組み合わせた 2 つのパターンの曲をもとにして、メロディ選定を行いました。音楽の谷口先生にそれぞれのメロディの弾き歌いを聞かせてもらったり、特徴を説明してもらったりしながら、子どもたちはそれぞれの良さや感じたことをまとめ、最後はそれぞれ A/B/C に分かれた 2 つのパターンを組み合わせ、とうとう愛唱歌のメロディが完成しました。選定したメロディを早速谷口先生が弾き歌って聞かせてくれましたが、子どもたちも真剣に聞き入り、終わった時には自然と拍手と歓声があがりました。

スタートから 2 ヶ月近く取り組んできた愛唱歌プロジェクトが、今週の曲の完成とともに終わりを迎えます。谷口先生の弾き歌いを聞いている際、「曲なんて作ったことないよ!」「自分たちにできるのかな...」とスタート時に不安そうにしていた子どもたちの姿がフラッシュバックして、思わず聞いた後に「完成が近づいてきたね!」と私自身が大喜びしました。実は感極まりそうになりましたが、それはお披露目まで我慢したいと思います。コロナの感染対策によって合唱練習を行うことが困難なため、保護者の皆様へのお披露目は 4 年生になってからになります。一期生として SOLAN のために作った愛唱歌が他学年を含めた子どもたちに早く歌ってもらえるのを心待ちにしたいと思います。

理科 ~磁石をつけよう~

理科の授業では、オンライン授業前後に行っていた明かりをつける学習から、3 年生最後の「磁石をつけよう」の単元に入りました。磁石は子どもたちも親しみがあるものなので、特徴について話し合った時から、「N (極) と S (極) がくっつく」「鉄でできている」と言ったことが挙がりました。まずは「磁石にくっつく物、くっつかない物」について調べ、素材ごとに整理しました。その後の N/S 極の性質についての授業では、「別の極はくっついて、同じ極は反発する」ことを既に理解している子が多かったため、N/S の表現の由来の話から、地球自体が大きな磁石になっていることや、北なのに S 極、南なのに N 極を持っていること、またそういったことを昔の人が発見したからこそ、方位磁針が生まれ、方角がわかる便利な世の中になった話へとつなげていきました。極の特徴を知っていた子たちも、地球の力には大変驚いていました。ただ知識を学ぶだけでなく、そこから発展して生活に関係することへと繋げることで、内容について興味関心を持ったり、疑問からより探究心を高めていったりすることができると考えています。

鈴木先生より ~図工・土と指で絵を描こう~

3 月の図工では、土を絵の具の代わりにして手や指で絵を描く学習活動に取り組みました。この授業は、手や指を使って土で絵を描くことで、楽しみながら身近な自然を肌で感じ取り、芸術的に表現することをねらいとしていました。最初は、水を混ぜて泥の状態になった土を触る際に、悲鳴のような興奮したはしゃぎ声が聞こえたのですが、次第に慣れてきたようで、「(土が) 冷たくてグニョグニョで気持ちいい!」と身近な自然に親しむ姿が多く見られました。中には、友だち同士で絵をつなげて一枚の大

きな絵を描いたり、泥に細かい乾いた砂をつけることで立体的にしたりする工夫も見られました。そのような中でも、どうしても土にさわれなくて作品作りを開始できない子も数名いました。正直なところ、私も授業準備をする際に事前に土に触れる時はかなりの抵抗を感じたので、泥の中に手を入れられない彼らの気持ちは十分理解できました。そこで、近くに枝が落ちていたので、手ではなくその枝で書いていいことを言うと、なんと見事に細い線を繋げて一枚の絵を描き上げていました。枝という自然の一部を使いながら、彼らなりに楽しんで活動に取り組んでいる姿を見ることができて、とても良かったです。3年1組がラストを迎えるまで残り1週間となりました。大切に、彼らの成長を見届け、4年生になっても変わらず楽しみながら学習を行えるように、関わっていきたいと思います。

写真はプロジェクトの授業でメロディ選定に励んでいる様子、理科の授業で磁石の実験をしている様子、そして図工の授業で土を使って絵を描いている様子です。